

# 令和元年度決算に対する

# 各党派の 見解

## メタボ体質を直し、無駄遣いを無くせ

自由民主党議員団

この度の中野区の財政非常事態は、私たちの再三の指摘に耳を貸さずに、無駄な事業を実施し、財務規律を堅持できなかった2年間の失政により起こされたと言えます。酒井区政は、初の予算で一般財源規模を690億円から20億円増、翌年度に40億円増額し、この2年間の放漫経営で60億円の支出が増加。厳しい財政規律を堅持していればコロナ禍による急激な財政のひっ迫はなかったと悔やまれます。

令和元年度決算では、事業委託調査等に一年間で約141億円が注ぎ込まれ、多くの無駄が生じました。特にシティブロモーション事業「中野大好きナカノさん」は2年間で4600万円、

## 万全な危機対応と着実な生活支援を

立憲民主党・無所属議員団

令和元年度は酒井区政が編成し執行した初めての決算である。学校や新体育館など、前区政からの大規模施設整備が継続され財政規模は3年続けて過去最高額となったが、各種財政指標をみると健全な財政状況といえる。

子育て先進区を掲げ、不妊検査・治療費等助成、保育の質ガイドラインの策定、児童相談所設置準備、中学生対象のSNSでの相談などを評価する。今後、子ども・子育て実態調査や、子育てカフェでの対話などを通じて把握した子育て世帯の声に基づき、未来へつながる更なる施策展開を期待する。

また、災害対応として風水害タイムラインの作成や備蓄物資の拡充、プロ

## 区民生活を守る的確な財政運営を図れ

公明党議員団

令和元年度普通会計決算は、前年度に比べ歳入総額は6.4%増の149.8億円で、歳出総額は4.2%増の141.5億円となった。財政指標によれば、実質収支比率は前年度を0.5ポイント下回る2.9%であり、経常収支比率は前年度を2.6ポイント上回る80.3%であった。財政指標からは、概ね区の財政状況は健全であるといえる。しかし、第4四半期からの新型コロナウィルス感染症拡大による経済的影響は、リーマンショック時を上回ることが推測され、今後は予算を許さない財政運営を強いられるため、区としての確かな判断が求められる。

昨年12月に起きたシステム障害は戸

## 区民の暮らしと福祉に寄り添う区政に

日本共産党議員団

2019年度は、内需の落ち込みに加えて10月の消費税増税により日本経済が窮地に追い込まれました。このもとで中野区の予算執行が問われたところであり、会派として一般会計歳入歳出決算の認定に賛成しました。

第一に、厳しくなる区民の暮らしに寄り添う施策が実施されました。「子ども子育て家庭の実態調査」の実施は、子どもの貧困対策に関する区の施策の展開に欠かせません。障害福祉分野では精神障害者への福祉手当支給が実施され、防災分野においては災害備蓄物資の入れ替えや避難所機能の強化など、災害への備えが図られました。

第二に、区民要求実現の点で、とり

## ピンチをチャンスに変える発想を

都民ファーストの会中野区議団

令和元年度決算は、健全な財政運営と判断される数値であったが、来年度のコロナ不況による対策が全く見えず、令和3年度の予算編成について非常に危惧しているところである。区は今年度と比べ、来年度は約92億円の収支減になるという見通しを立てているが、減収を埋めるだけの具体的な提示を出していない。このままだと基金貯金を切り崩すか起債(借金)をすることとなり、財政状況が将来にわたり悪化するとは自明である。

本来は職員の人件費削減、新区役所建設の延期、それから区民サービスの見直しを行うべきところを、区民活動センター、小学校の建替え計画の延期